

### 3：環境要素の設定

○先行事例の「阿波しらさぎ大橋建設事業」を参考に、渡河部の環境影響評価項目とする環境要素を設定する。

## ■ 3-1. 環境保全に関する検討内容

事業者が環境保全のため行う検討内容等を以下に示す。

段 階		項 目	検討内容	検討に使用する調査データ
計画段階	H25	環境保全対策の検討	①環境改変最小化に向けた橋梁形式検討 ②橋梁整備による影響の検討	既往の環境調査データ ・先行事例の環境調査データ ・平成25年5月～6月環境調査データ
	H26	環境モニタリング調査計画の検討	環境モニタリングの ③調査項目 ④調査方法	既往の環境調査データ ・先行事例の環境調査データ ・平成25年5月～6月環境調査データ
		環境モニタリング調査による影響検討（事前調査）	環境モニタリングの ⑤調査結果の分析・照査	環境モニタリング調査 ・事前調査データ
施工段階	H27～	環境モニタリング調査による影響検討（工事中～事後調査）	環境モニタリングの ⑤調査結果の分析・照査 ⑥調査結果に基づく影響評価	環境モニタリング調査 ・工事中～事後調査データ

# 3-3. 環境影響評価項目の設定

環境影響評価項目は、先行事例の評価項目から必要な環境要素を抽出のうえ、設定する。

- ①環境要素は、「自然環境の保全に関わるもの」を対象とする。
- ②行為・要因は、事業者での検討可能な「工事の実施」及び「橋梁の存在」を対象とする。
- ③景観、人と自然のふれあい活動の場、道路照明、風害については対象外とする。

	環境要素の区分	行為・要因			説明
		工事の実施	橋梁の存在	道路の供用	
公害の防止に関わるもの	大気質			環・阿	→工事中は対策工を実施する。また、道路供用はアセスにて「環境保全目標を満足する」と評価されており、対象外。
	騒音	阿		環・阿	
	振動	阿		阿	
	水質	阿			
自然環境の保全に関わるもの	地形及び底質		阿		→環境影響評価項目として設定。
	日照障害		阿		
	植物、動物、生態系	阿	環・阿	環・阿	
	景観		環・阿		→アセスによって橋梁整備の景観について「環境保全目標を満足する」と評価されているが、 <b>実施設計ではディテールを検討。</b>
	人と自然とのふれあい活動の場	阿	阿	阿	→堤防道路上約4.5mを通過しウォーキング、散歩等への影響はないため対象外。
	道路照明			阿	→吉野川渡河部上に道路照明の設置予定なし。
	風害		阿		→主塔が必要な場合、対象とする。

# 3-4. 橋梁形式検討に影響する環境上のポイント

設定した環境要素

環境要素の区分	行為・要因		
	工事の実施	橋梁の存在	道路の供用
大気質			環・阿
騒音	阿		環・阿
振動	阿		阿
水質	阿		
地形及び底質		阿	
日照障害		阿	
植物、動物生態系	阿	環・阿	阿
景観		環・阿	
人と自然とのふれあい活動の場	阿	阿	阿
道路照明			阿
風害		阿	

## ○橋梁形式複数案策定時

- ➔ ① 計画段階で定性的な予測に基づく影響の最小化を図る。
- ↓
- ② 先行事例(阿波しらさぎ大橋)では、日照障害は軽微とされ、「地形及び底質」及び「植物、動物、生態系」を重視して検討されている。
- ↓

③ 吉野川渡河部の橋梁形式検討における環境上のポイントは、先行事例で重視された環境要素への影響を踏まえると、

- 1) 施工時の河床の浚渫による地形改変
- 2) 下部工(橋脚)の存在による流況変化に伴う、橋脚周辺部及び河口干潟の地形変化
- 3) 上部工の存在による鳥類の飛翔状況(経路・高度)の変化

であることが示唆される。

## ○橋梁形式選定時

- ↓
- ④ 施工時の河床の浚渫量、浚渫範囲、橋脚設置した場合の流況解析による地形変化量、上部工の形式(主塔、ケーブル)による物理環境の改変から、**定量的な影響の予測を行い橋梁形式を選定**する。



# 3-6. 先行事例を踏まえた橋梁の存在に伴う影響のインパクト・レスポンス・フロー



下部工による地形変化、上部工による飛翔状況の変化が生物へ及ぼす影響を以下に示す。

